

● ● ● 未来の市民防火救命リーダーを育成 ● ● ●

兵庫県たつの市消防本部

1 はじめに

たつの市は、兵庫県の南西部に位置しており、南北へと縦長の地形で、その中央を「たつの」を育んだ母なる川、1級河川・揖保川が流れています。たつのは、自然と歴史豊かな揖保川とともに発展してきた地域で、その揖保川を軸に、北部の山々や原生林・鶏籠山などの豊かな緑、南には瀬戸内海国立公園にも属する関西随一の遠浅海岸である新舞子浜、梅林等の自然資源に恵まれています。また、歴史的町並みを色濃く残す龍野城下町は「播磨の小京都」と親しまれ観光名所のひとつとなっており、国指定史跡の新宮宮内遺跡、江戸時代に海の宿駅として栄えた室津港等、歴史的資源も豊富に有しており、魅力的な歴史と自然に恵まれたまちです。

たつの市消防本部は、2署・1分署・2出張所(揖保郡太子町の事務委託を含む)、職員数125名、消防団は、47分団、団員数1,431名の体制で、管内人口約11万5千人(たつの市8万1千人・太子町3万4千人※平成21年8月現在)の安全・安心を担っています。平成17年4月から、「レッドパトロール」として機動性の高いレッドバイク5台を使用し、1日4回市内巡回パトロールを行うなど、赤色回転灯の灯りのもと、市民の安全・安心を見守りつづけています。

2 「未来の市民防火救命リーダー育成事業」について

平成21年度新規事業として「未来の市民防火救命リーダー育成事業」を創設しました。

本事業は、①小学4年生を対象とした「防火・

救急まめ講座」、②中学2年生を対象とした「普通救命講習Ⅰ」③中・高校生を対象に「防火救命リーダー育成講座」の3本柱で構成するもので、若年期から防火・防災についての正しい知識、対応力について学ぶことにより防災に関する意識を高め、体験談を学校や家庭で話し合うことで、家庭内・地域内にその輪が広がること、地域防災への若い世代の参画を期待し取り組んできました。

①「防火・救急まめ講座」

消防職員が小学校の教壇に立ち、防火・防災に関する授業を行ったものです。

たつの市内の全小学校(17校)の小学4年生を対象に実施したもので、合計776名、28クラスを、1クラスずつ約3ヵ月をかけ訪問しました。

授業は、救助隊員と救急救命士の2名で担当し、火災・救助現場の映像を見てもらいながら、職員の体験談をとおして火の怖さ・命の大切さを訴える防災講話、火災実験装置を使用して、コンセントからの出火・ガス爆発実験、小学生向けの簡単な応急手当講座となっています。担当職員は、学校授業を受け持つということもあり、事前に繰り返し模擬授業を職場で行い、内容も「こうした方がわかりやすい」、「このやり方のほうが伝わるのでは?」など、話し合いを重ね、小学生にも楽しく、わかりやすい授業内容となりました。

生徒の理解も上々で、「ガス爆発の音で心臓が飛び出そうでした」と目を輝かし、また「消防のおじさんの着ている服は燃えないのです



NHKでのTV放送の様子 平成21年4月27日

か？」など小学生らしい質問も数多く飛び出し、授業の様子は地元新聞紙、NHKニュースにも大きく取り上げられました。

②普通救命講習Ⅰ

市内すべての（5校）中学2年生、合計775名を対象に「普通救命講習Ⅰ」を実施したものです。

学校授業の一環として「普通救命講習」を実施するのは初の試みで、この講習を通じ、「命

の大切さ」「救命処置」の重要性を認識し、よりよい人間育成を目指すと共に、地域救命力の向上を期待するものです。

実施にあたり、いかに中学生達に3時間という長丁場の講習を飽きずに、興味を持って受講してもらうかを考え、通常の普通救命講習の内容をアレンジし、“楽しく学べる”をテーマにメニューを考えてみました。

主な工夫点

- (1) 講義にパワーポイントを活用し、アニメーション・動画等を使用し、わかりやすく応急手当の必要性、AEDについて説明した。
- (2) 心肺蘇生法、AEDの取扱いの展示に寸劇を取り入れ、楽しく、わかりやすく説明した。
- (3) 生徒の実習をシミュレーション形式にした。（3名1組のチームを作り、訓練想定に基づき活動し救護するもの）

生徒たちも熱心に受講し、「実際の現場でも恐れずAEDを使います」という頼もしい感想も次々と飛び出し、教員からは、「いざというときには、我々教師だけでなく、生徒と共に救命



たつの市立揖保川中学校 普通救命講習Ⅰ
平成21年7月13日



活動をしたい」という言葉も聞かれました。

③防火救命リーダー育成講座 ～集え！未来の RESCUE～

未来を担う青少年（中学生・高校生）を対象に3日間の日程で消防・防災に関する知識、技術を学ぶ「防火救命リーダー育成講座」を実施したものです。

この講習は、3日間の体験を通じて、確実な災害に対する知識、対応力を身につけるとともに、地域や家庭内における防災に対する思想の普及を行い、将来的な地域自主防災のリーダーとなりうる担い手を育成することを目的に、大きく4つの部門を軸にプログラムを構成しました。

- (1) 防火部門（消火、救助体験）
 - (2) 救急部門（普通救命講習Ⅱ）
 - (3) 防災部門（DIG、避難所体験）
 - (4) 管外学習部門（兵庫県広域防災センターでの体験学習、兵庫県消防防災航空隊見学）
- 各部門とも実習がメインで、本物の機械、器



各学校へ配布した公募告知ポスター

具を使用するリアルな体験を通じて知識と技術を身につけてもらえるよう工夫した内容の濃いプログラムとなっています。

受講生の募集は公募で行い、市内の全中学・高校へポスターとチラシを配布し、インターネット、市広報誌等を通じて広く募集したところ、



災害図上訓練（DIG） たつの市の地図を囲み図上訓練に取り組む様子 平成21年8月18日（火）



水中搬送法（チンプル）に取り組む様子
平成21年8月18日（火）



濃煙救出訓練に挑戦！ 平成21年8月19日（水）

女性4名を含む18名の若きリーダー候補生が集まりました。

さすがに3日間の講座に挑戦しようという生徒だけあって、担当職員を圧倒する真剣さで、各訓練に取り組み、熱い汗を流しました。特に、救助体験での、ロープブリッジ渡過や、5階からの降下訓練、煙の中からの救出訓練では、RESCUE隊員さながら、勇猛果敢にチャレンジをしました。また、普段は見ることのできない、兵庫県広域防災センターの訓練設備や消防学校

の施設、兵庫県消防防災ヘリを目の前にし、「将来は、ヘリの隊員になる！」「オレンジの制服を着たい」など、未来のRESCUEへ思いを馳せていました。

3 今後の取り組み

この事業に取り組むにあたり、小・中学校の実際の授業としてプログラムを作成する事から、事前に学校及び市教育委員会への説明、各調整に事業実施3ヶ月前から準備してきましたが、年度末、年度始の時期に加え、先生方の異動等も重なり、大変な苦勞をしました。学校長、教育委員会のご理解とご協力により、いざ学校の教壇に立った時には、小・中学生達の真剣な眼差しに、当初の苦勞は吹き飛び、期待以上の授業、講習となりました。後日、各学校から一人ひとりの感想をつづった文集を送られ、心のこもった言葉に達成感を得ることができました。来年度以降も、継続事業とし、より充実した授業内容となるよう創意工夫し、「未来の市民防火救命リーダー」が一人でも多く育つよう、取り組んでいきます。



管外学習（兵庫県消防防災航空隊）
真剣な眼差しで機体の説明を受ける受講生たち
平成21年8月20日（木）